



TITLE:

社会情報基盤としてのアーカイブ ：未来価値創出のために

AUTHOR(S):

古賀, 崇

CITATION:

古賀, 崇. 社会情報基盤としてのアーカイブ：未来価値創出のために.
2008

ISSUE DATE:

2008-11-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/86186>

RIGHT:

Copyright: Takashi Koga.

社会情報基盤としてのアーカイブ

—未来価値創出のために—

古賀 崇(国立情報学研究所 情報社会相関研究系)

Takashi KOGA (Information and Society Research Division, National Institute of Informatics)

日本における記録をめぐる問題

・最近の話題: 年金記録管理の問題、厚生労働省による薬害肝炎感染者リスト放置の問題、海上自衛隊による航海日誌破棄問題、老舗企業による製造年月日・消費期限改ざんの問題、アスベスト使用に関する記録管理の問題 等々…

・さらなる問題: 過去の出来事を検証できない

— 戦後の高度成長期の政策に関する文書・資料について、日本の官庁や公文書館などでは見つからず、米国の公文書館から入手できた、というケースも…



記録管理・アーカイブの観点からの背景として

・現在の記録と過去の記録との分断

- 過去の記録は「歴史的研究のためのもの」に過ぎない、という扱い
- 「過去の記録は現在の出来事につながる証拠」という意識の不在
- 過去(の失敗)から学ぶための体制づくりの不在

・今、現にあるアーカイブ(文書館)の位置づけは?

- 自ら作成した記録を集積する「機関アーカイブ」と、外部から記録を収集する「収集アーカイブ」の区別が、米国では存在
- 日本ではこの両者の区別があいまい: 本来は組織的に公文書館に移管されるべき公文書であっても、公文書館職員が「ゴミ拾い」のようなかたちで「収集」しがち
- 「今ある記録を将来に向けて残すため準備する」という意識が希薄



記録・アーカイブへの見方を変えられないか?

・過去の記録も今ある記録も同じ目線で考えられようにしたい:
特に「活動の証拠」という観点で

- 過去-現在-未来をつなげられるように
- ・「証拠を残す」意義はさまざまな領域で共通
- ビジネス: 経営戦略の検証／他国への技術移転／PR
- 行政: 政策の検証／年金、土地などの権利確保
- 法律: 先例の確認 — 医療: 医療過誤や薬害の検証
- 研究: 研究過程の検証可能性(研究の再現性)の保証、
新たな研究成果の生成

⇒未来価値創出のためのアーカイブ

その基盤としての「レコードキーピング」の考え方へ…



「レコードキーピング」の射程と機能

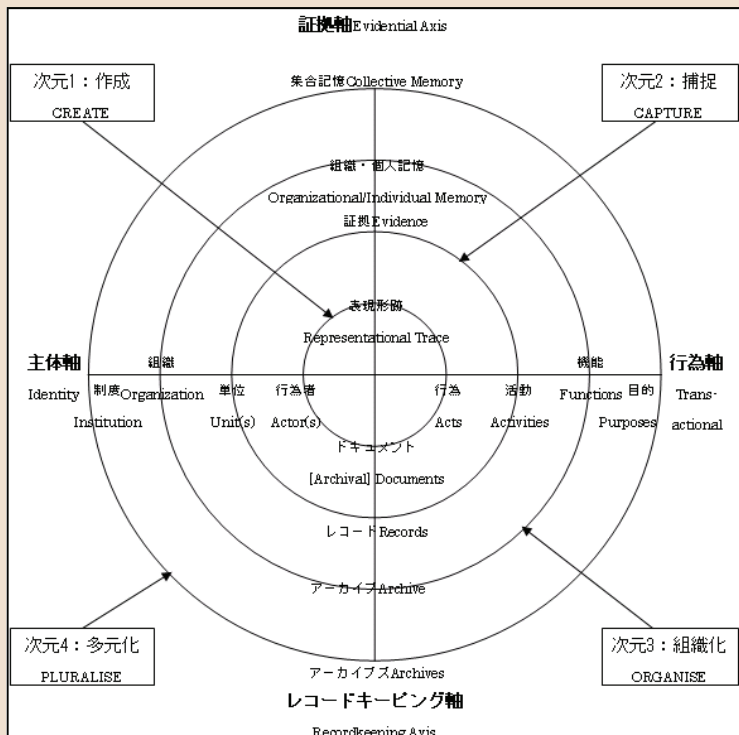
「レコードキーピング(recordkeeping)」とは？＜もとはオーストラリアでの戦略的概念＞

・「経営、活動、財務上の必要性や責任に沿うように、記録を体系的に作成、利用、管理、処分すること」(A Glossary of Archival and Records Terminology. Chicago, Society of American Archivists, 2005, p. 331)
→記録を単に「とっておく」ということではなく、記録をその生成から処分ないし活用の段階まで把握

「レコードキーピング」の背景としての「レコード・コンティニウム(records continuum)」論

・記録の「生成から処分ないし活用の段階まで」の諸要素を示したモデル
・現用→半現用→非現用記録の時間的推移と、各段階における記録の取扱い方の違い(作成原局から文書館への移管)を強調する「ライフサイクル論」と対を成す考え方

＜レコード・コンティニウムの概念図＞(出典:McKemmish「きのう、きょう、あす」『入門・アーカイブズの世界』所収, p. 202)



記録管理・アーカイブへの影響

①電子的記録管理

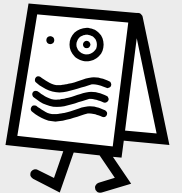
・記録の発生時点から把握・管理する必要性の高まり
・情報セキュリティとの結びつき: 特に「デジタル・フォレンジック」(電子メールの復元などの「証拠発掘」技術)

②メタデータの要素

・活動の証拠という観点から(バージョン管理など)
・記録管理にかかわる国際基準への反映

↓
ポイント: 記録が発生した時点からの「個人や組織による『活動の証拠』の確保」を強調

詳しくは、下に示しておきます文献をご参照下さい。



主要参考文献

- ・古賀崇「レコードキーピング: その射程と機能」高山正也先生退職記念論文集刊行会編『明日の図書館情報学を拓く: アーカイブズと図書館経営』樹村房, 2007年3月, p. 60-71. ISBN: 978-4883671335
- ・古賀崇「レコードキーピングをめぐる一考察: マケミッシュ、クックの論考をもとに」『レコード・マネジメント』No. 53, 2007年4月, p. 89-107.
- ・古賀崇「ARMA東京支部第83回定例会報告」『電子時代における記録管理の新たな潮流を探る』Records and Information Management Journal』創刊号, 2007年4月, p. 27-32.
- ・記録管理学会・日本アーカイブズ学会共編『入門・アーカイブズの世界: 記憶と記録を未来に』日外アソシエーツ, 2006年6月. ISBN: 4816919813
- ・KOGA, Takashi. "Archives in the U.S. and Japan: Executive Session Summary". A Paper for "Access to Archives: The Japanese and American Practices" Conference (Open Forum), University of Tokyo, Tokyo, Japan, May 11, 2007.
<http://www.archivists.org/publications/epubs/accesstoarchives/02_Takashi_KOGA.pdf>

こちらでもご覧下さい: 古賀崇「記録管理、アーカイブズ、レコードキーピングをめぐる情報源案内(パスファインダー): 英語圏の論文等を中心に」
<http://research.nii.ac.jp/~tkoga/recordkeeping_guide.html>

新刊のお知らせ

『アーカイブへのアクセス:

日本の経験、アメリカの経験』

小川千代子・小出いづみ編,

日外アソシエーツ, 2008年9月.

3,990円(税込). ISBN: 978-4-8169-2136-0

中央・地方政府、大学、企業でのアーカイブ活動をめぐり、日米の現状と課題について詳細な比較・考察を行いました。古賀は本書の総括の一環として、「日米のアクセスを比較して」を執筆しております。ぜひ一読下さい！